

第5・6学年 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 令和2年7月17日(金)第6校時

場 所 高学年フロア

指導者 T1加藤 健 T2千葉 阜嗣

1 単元名 只見町の産業を調べよう I

2 単元の目標

只見町の産業について知り、取材を通して友達や地域の方々と思いや考えを交流することで、只見町の産業の工夫や努力に気づき、応援したいという気持ちをもつことができる。

3 単元について

(1) 児童の姿 (男子：5年3名、6年4名 女子：5年8名、6年6名 計21名)

昨年度までの総合的な学習の時間では、只見町の郷土料理に使われている食材が日本海から来ていることや、只見川の調査から発展して、海洋汚染、地球温暖化などについて調べ、自分たちの生活と海が密接に関係していることを理解することができた。

6学年の児童は学習意欲が高く、進んで自分の考えを発表できる児童が多い。また、一人で学習するよりも友達と関わりながら学習する方が楽しいと感じている。5学年の児童は感想などは言えるようになってきたが、進んで自分の意見を発表する児童は少ない。5月に実施された「田子倉湖散策」では、海とのつながりや只見町のよさについて考え、意見を交流することができた。

また、5月に実施した「海洋教育アンケート」では、ほとんどの児童が「只見町が好き」と答えており、「自然が豊か」「食べ物がおいしい」「人が優しい」という理由であった。また、将来も只見町に住んで、貢献したいという児童が多くいる。

(2) 単元のとらえ

本単元は、自分たちが住む只見町にはどのような産業があるのか興味をもち、自分が只見町の一員として取材をすることで、仕事の内容だけでなく、今後産業を発展させていくための工夫や努力、課題や悩みなどがあることに気付くことができるようにすることがねらいである。

豪雪地帯として知られる只見町に降る雪は日本海がもたらしており、只見町の自然を豊かにしている。そして、只見町にはこの豊かな自然の代表でもある「水」や「雪」を生かした産業が数多くある。しかし、2011年の豪雨災害や今年の雪不足で、一部の産業は被害を受けている。

そこで、只見町の産業の多くは自然に関連した仕事が多く、集中豪雨による災害や今年のような雪不足などの影響を受けやすいが、そんな中でも、様々な工夫や努力をしながら地域のために貢献していることに気付かせたい。

(3) 教師のねがい

本単元では、これからの只見町を担う子どもたちが、郷土をよりよいものにすべく、現在の只見町の産業構造について興味をもち、取材を通して只見町の産業のよいところや課題に気付くことができるようにし、地域社会の一員としての自覚を高めたいと考えた。

そこで本時では、子どもたちがお世話になっている方をゲストティーチャーとして招き、直接話を聞くことで、苦労や努力に気付かせ、これからの産業について考えさせたい。取材を通して、只見の産業の素晴らしさと、第一次産業、第二次産業、第三次産業ともに、自然に関連した仕事

が多いため、水害や気候変動の影響を受けていることに気付かせたい。その気づきを基に深く考えることができるように、一問一答で終わる質問ではなく、後に地域の産業を応援するための具体的な提案につながるような質問もさせたい。最終的には、3学期に実施される、全国海洋教育サミットで、自分たちの提案を発表できるようにつなげていきたい。

4 指導計画と評価規準（総時間8時間 本時5／8）

次	主な学習内容	時数	評価規準及び評価方法
1	・ 只見町の産業に関心を持ち、グループごとに取材先を決める。	1	ウ グループごとに、一人一人が取材したい場所を理由も含めて出し合い、決定することができる。 (観察)
2	・ 質問事項をまとめる。	1	ア 主体的な学びのために、ほり下げるような質問ができるように、取材相手の答えを予想して、追加質問などを準備することができる。 (観察・ワークシート)
3	・ グループごとに第一次・第二次・第三次産業についての取材活動を行う。 ・ 取材して気付いたことから、他のグループと意見を交流したり、ゲストティーチャーの話の聞いたりして、自分たちの考えを深める。	3 本時	イ 取材を通して、只見の産業の工夫や努力、課題や悩みなどにも気付くことができる。 (観察・ワークシート)
4	・ 取材した内容や、取材して気付いたことを話し合い、グループごとにまとめる。	3	エ 只見の産業の工夫や努力に気づき、応援したいという気持ちをもつことができる。 (観察・ワークシート)

〈評価の観点〉

ア よりよく問題を解決する。

イ 学び方やものの考え方

ウ 主体的、創造的、協同的にとりくむ態度

エ 自己の生き方

5 4つの視点から見た他教科との関連（A知識の深化 B技能の活用 C価値の醸成 D行動の変容）

関連場面	教科等	単 元	内容と視点との関連
第1次	国語	聞いて、考えを深めよう（6年） きいて、きいて、きいてみよう（5年）	B 友達の考えと比較しながら、自分の考えを述べることができる。
第4次	社会	震災復興の願いを実現する政治（6年）	A これからに向けての課題に気付くことができる。
	道徳	チョモランマ清掃登山隊（6年） もったいない（5年）	C 自然愛護

6 研究にせまるための本時の手立てについて

(1) 研究内容①「地域の特色を生かす素材の教材化」

農業に詳しい方をゲストティーチャーとして招き、これまで取材してきた様々な産業と比較しながら聞いたり質問したりすることにより、只見町の産業の工夫や努力、課題や悩みに気付けるようにする。 (手立て1)

7 本時について

(1) 目標

取材を通して得られた気づきを友達や講師と交流することにより、只見の産業の工夫や努力、課題や悩みなどにも気付くことができる。

(2) 展開

	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 評価
つかむ	1 前時までを振り返り、本時のめあてをたてる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">只見の産業の工夫や努力、課題や悩みは何だろう。</div> 2 ゲストティーチャーを紹介する。	10	○ 前時までの取材内容を報告し合い、第二次、第三次産業の工夫や努力、課題や悩みについて共有する。 ○ ゲストティーチャーを招くことで、子どもたちの興味関心が高かった、第一次産業に対する質問意欲を高めることができるようにする。
さぐる	3 ゲストティーチャーの講話を聞き、質疑をする。 ・ 農業における、工夫や努力、課題や悩みなどを予想して話を聞く。	20	○ ワークシートを使い追加質問を考えたり、他のグループの質問やそれに対する答えを書き込んだりすることで、さらに詳しく質問できるようにする。 ○ これまでの経験を基に、子どもたちの取材に答えていただき、只見町の産業のよさ、課題や悩みに気付けるようにする。 (手立て1) ○ T2は各グループの活動の補助に入る。
ふかめる	4 分かったことをグループごとに整理してから、気付いたことや感じたことを話し合う。 ・ どの産業も、少なからず災害の影響を受けている。 ・ 只見の産業は、災害を乗り越えてきている。	10	○ 他の産業を取材して気付いたことと本時質問したことを比較しながら話し合いをすることで、只見町の産業のすばらしさと、課題に気付けるようにする。 ○ T2は各グループの活動の補助に入る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">只見の産業の、工夫や努力、課題や悩みに気付くことができたか。(観察・ワークシート)</div>
ひるめる	5 只見町の産業についての気づきを振り返り、次時の活動を確認する。	5	○ 今回の活動を通して気付いたすばらしさ、課題や悩みなどに対する思いを発表することで、産業を応援したいという気持ちを共有できるようにする。